



働くあなたのクリニック

「COPD」を ご存じですか？

COPDという名前をどの程度の方はご存知でしょうか。以前は肺気腫や慢性気管支炎という名前であった病気をその病態から慢性閉塞性肺疾患（chronic obstructive pulmonary disease）とよび、その英語の頭文字を取ってCOPD（シーオーピーディー）と呼びます。なかなか、なじみがないですね。2016年の認知度調査では国民の25%ということで4人に1人しか知らない病気ということになります。ほとんどの原因がタバコの喫煙ですから、タバコ病なんているのもわかりやすく、いいと思うのですが、たばこ産業に悪いイメージをあたえるので、このようなネーミングは出ないでしょうね。今回はそのCOPDを取り上げようと思います。

COPDはどのような病気でしょうか。

COPDはタバコなどの有害物質の吸引によって肺に慢性的な炎症が起き、空気の流れが制限される結果、呼吸困難などの症状がみられる病気です。たばこが肺がんの原因の一つであることは広く知られていますが、タバコを吸いながらCOPDを心配している人はほとんどいないのではないのでしょうか。タバコの煙は肺にはいると煙の刺激で肺に炎症細胞が集まってきます。集まった炎症細胞から異物に対する反応としてタンパク分解酵素が放出され、肺の正常構造がゆっくりとそして気づかない程度に壊れていきます。また炎症の繰り返しで末梢の気管支の壁を厚くするため内腔が狭くなります。そして、

COPDの症状はどのようなものがありますか。

症状として最初に自覚するのは労作時の息切れです。肺気腫の患者さんでは息を吐くのに時間がかかるため安静時のようなゆっくりした呼吸の場合は問題ないですが、運動をしたときなど早い呼吸では息を吐くのに時間がかかり、十分息を吐ききる前に次の息を吸い始めるため息が吐

ききれないことで起きる、呼吸困難を感じます。また、喫煙刺激で痰が増え、増えた痰を出そうにも気管支の気流制限のため咳による気流流速が低下するため、痰の切れが悪くなります。

COPDは珍しい病気でしょうか。

日本人ではCOPDで治療を受けている方は約26万人といわれていますが、統計学的調査で潜在的には530万人の方がCOPDであると推測されています。これほどの患者さんがいるのに認知度が低いのはなぜでしょうか。ほとんどの患者さんが喫煙歴のある50〜60歳以後の人に発症します。息の切れや痰の切れの悪さが年齢のためと考えがちになることや、活動度の低下により息切れを自覚しにくくなっていくからかもしれません。もしもあなたが喫煙者や、過去に喫煙をされていた人なら息切れはCOPDかもしれません。

COPDの治療としてどのようなものがありますか？

治療の第一歩は禁煙です。禁煙するだけで痰が減るので呼吸が楽になりますし、禁煙を早く行えば行うほど肺の機能悪化をくい止められます。

COPDを診断されたらどうしたらいいのでしょうか。

逆に言えば禁煙が遅れば遅れるほど肺の機能がさらに落ちていき、悪いことに落ちた肺機能は禁煙しても元に戻らないのです。COPDは空気の流れが悪くなると息苦しくなる病態ですので、気管支を広げる気管支拡張剤という薬が有効な治療です。又、気管支拡張剤は吸入で行うのが最も有効です。吸入薬には抗コリン薬の吸入薬とβ2刺激薬の吸入薬の2種類があり、それぞれあるいは併用で使用して治療します。次に重要な治療は呼吸リハビリなどの運動療法です。COPDにあった呼吸法をすることで日常生活がスムーズに行うことができますようになり、筋力がつくことで呼吸にも良い影響がでると考えられています。また、栄養状態も重要な要素と考えられています。

COPD患者さんが最も気をつけなければならぬのがCOPDの増悪という病態です。風邪やインフルエンザなどで安定した状態から急に悪化することをいいますが、増悪を繰り返すと肺の機能の低下を早め予後を悪くすると考えられています。

す。そのため、日ごろからの体調管理や予防接種などを行うことが大切です。特別な病気ではありませんので、信頼できるかかりつけの先生に治療を含め管理してもらいましょう。

今月の先生



岐阜市民病院 呼吸器・腫瘍内科

吉田 勉 先生

専門分野
呼吸器一般、呼吸リハビリ
役割
呼吸器内科部長
呼吸器腫瘍内科部長
呼吸器病センター長

主な資格、認定
日本内科学会内科指導医・認定内科医・専門医
日本呼吸器学会専門医・指導医

日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医
日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医
卒年、主な職歴
平成2年岐阜大学医学部卒
大阪府立呼吸器アレルギーセンター